

福津市教育委員会 令和3年度研究報告書

研究成果(概要)

○学力向上の基盤として、学校、家庭、地域の意識共有と家庭学習の充実を図ることを目的として、その効果的な実施方法の研究と検証を行った。実践校で試行した週単位、自己計画学習は一定の効果を確認できたため、先行研究を参照し、発達段階に応じた学習方法・内容をさらに研究していくこととしている。

○学校、家庭、地域の意識共有のための意見交流会の継続開催を行った。参加者から、意識共有の効果を得たことから、継続開催に向けた体制の構築を継続して行っていくこととしている。

○本年度の研究を踏まえ、子供が学習を行う上で家庭、地域の支援を日常的に得るためのオンラインによるサポート体制の構築を図る。

1. 研究課題と調査・取組内容

(1) 具体的な研究課題

市内小中学校の職員構成は、若年化が急進しており、学習活動の組み立てが学習内容の遂行を目的とした教師主導による活動となる傾向が強い。その結果、学習活動において、児童自らが課題を設定し、自らが課題解決に携わっていくという姿が見られない様子が見える。

子供が主体的に学ぶためには、学校での教育活動を基盤として、家庭・地域において子供に関わる大人の意識の共有と連携が不可欠だと考える。

そこで、本研究では次の2つの研究課題を設定し、学校・家庭・地域が協働して子供の主体的な学びの構築に向けた意識の共有と具体的方策を検討・実施し、その検証を行う。

研究課題Ⅰ

子供が主体的に学ぶための資質・能力を地域全体で共有し、その支援体制を構築する。

学校における主体的に学ぶための学習形態の構想と試行

研究課題Ⅱ

学校・家庭・地域が協働した支援体制の具体的方策を検討・実施し、効果検証する。

(2) 研究課題に基づいて実施した調査・取組内容

本年度、子供の学力向上に向けた効果的な進捗を図るための家庭・地域の関わり方を、それぞれの立場から意見を出し合うとともに、学校の取組について、家庭、地域ができることとして共有した。また、子供が主体的に計画、振り返りを行う「家庭学習」を継続して試行し、来年度の具体的な取り組み内容を明らかにした。

さらに、家庭学習や学校教育活動で地域の資源を手軽に活用するための手段として、地域の様々な人材による学びの資料の提供やオンラインティーチング、質疑応答などを可能にするホームページの作成し、地域が主体的に参加できる仕組みを構築するなど、学校と地域が協働して、子供の学習環境の整備する方策を検討した。具体的内容は以下のとおりである。

① 意見交流会「津屋崎未来創造会議」の開催

子供に関わる大人の認識共有を目的として、学校、家庭、地域の代表者及び児童生徒の代表者が参加し、子供が主体的に学ぶための「具体的な資質・能力」やその育成のために必要な方策に関する対話を行った。なお、この意見交流会は、福津市学び方検討委員会を組織し、先行研究文献^{*1}等を参酌し、企画実行した。

表1 意見交流会一覧

| | 開催日 | 回 | 内 容 | 参加者 |
|---|-----------|------|--------------------------|--------------------|
| 1 | 6月26日(土) | 企画会議 | 対話の会の企画① | 福津市学び方検討委員会委員 |
| 2 | 7月26日(月) | 第1回 | 対話の会「未来を担う子供達に必要な力」 | 学校, 家庭, 地域代表 |
| 3 | 9月16日(木) | 企画会議 | 対話の会の企画② | 福津市学び方検討委員会委員 |
| 4 | 10月25日(月) | 第2回 | 対話の会「子供が成長するために大人ができること」 | 学校, 家庭, 地域代表 |
| 5 | 11月11日(木) | 特別回 | 児童・生徒を対象とした対話の体験会 | 小学6年生 |
| 6 | 11月23日(火) | 第3回 | 対話の会「対話の会学びを深める効果的な家庭学習」 | 学校, 家庭, 地域, 児童生徒代表 |
| 7 | 12月27日(月) | 第4回 | 対話の会「学びを深める授業のアイデア」 | 学校, 家庭, 地域, 児童生徒代表 |

② 児童の現状把握

研究計画段階では、調査員に面接調査を計画していたが、感染症拡大により対面調査の実施が困難となったことから、紙面調査を行った。

調査は、児童の実態把握のため実施を計画していた東京書籍の標準学力テストと相関分析が可能な東京書籍総合質問紙調査とした。

この調査では、児童の「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」の調査及び学力との相関分析を行い、③福津市学力向上推進委員会に報告した。この結果については、令和4年度実践の評価検証の現状値として取り扱うために実施した。そのため、結果の分析は来年度の研究報告において示すこととしている。

③ 主体的な学びを創る学習方法の開発・試行

家庭学習課題の改善

家庭学習(宿題)は、多くの学校現場で取り組まれており、その教育的効果について様々論じられている。本研究では、学校における教育活動に加え、家庭学習において児童が学びに向かう力を高める一方策として研究することとした。

藤村ら^{*2}は、国立教育政策研究所は TIMSS(国際数学・理科教育調査)の児童生徒の意識に関する質問紙調査を分析し、「日本の小学生は、提出の義務があり、決められた内容の宿題には取り組むものの、自主的に計画を立て自分の課題に応じた家庭学習を行うまでには至っていないことがわかる」としている。

本研究実践校においても、教師が、学年あるいは学級児童全員に一律の課題を提示し、翌日朝までに提出をさせるといった家庭学習の形態をとっており、与えられた課題をこなすといった従前の家庭学習を行ってきた。

本年度の研究実践では、子供が学習意欲を高め、主体的に学びに向かうための家庭学習の在り方を実践校において試行した。

【実践の具体的内容】

実践校中学年での試行

○実施概要

家庭学習(宿題)について、従前の教師が提示する全員一律の学習内容から、漢字、計算の課題についてのみ以下のサイクルに変えて実施した。

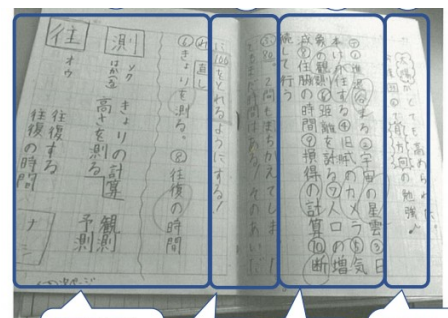
- ①児童自身による計画、②習熟内容自己診断、③課題実施状況の振り返り、④再度練習

○実施時期

令和3年7月から実施

○対象学年

4年生



文で練習した後、大きく書いて、言葉で練習。

意気こみを書いていますね。自分のやる気を。

文でテストをしています。言葉だけでもいいですよ。

太陽?月? おそらく先に進んだか、深く泳いだかのことだと思います。

実践校高学年での試行

○実施概要

家庭学習(宿題)について、従前の1日単位の課題(教師が提示した全員一律の内容)から、以下の通り1週間単位の課題(自己分析に基づく自己個別内容の自己設定)に変えて実施した。

○実施時期

令和3年9月から実施

○対象学年

5年生(全4クラスのうち2クラスで実施
実施していない2クラスと仮検証を行った)



高学年自主学习(家庭学習)

自主学习計画表

5年 組 名前()

1週間の日目標(身に付けたい力・調べたいこと)

☆各週の自主学习のヒントを(思い浮かばない人は参考に)
 ◎23 国語「想像力のスイッチを入れる」テスト
 ◎24 社会「自然災害とともに生きる」テスト
 程度で進めたいところは実施しません。
 ◎赤字のしめしめは、◎から出ます。練習が大切
 ◎計算たしめめは、◎から出ます。練習が大切
 ◎計算たしめめは、◎から出ます。練習が大切

| 日付 | 取り組む学習 | ふりかえり (具体的に書いてみよう) |
|--------|--|-----------------------|
| 月 1/31 | | 学習時間 分 |
| 火 2/1 | | 学習時間 分 |
| 水 2/2 | | 学習時間 分 |
| 木 2/3 | ☆国語「想像力のスイッチを入れる」テスト ◎国語「想像力のスイッチを入れる」テスト | 学習時間 分 |
| 金 2/4 | ☆社会「自然災害とともに生きる」テスト ◎社会「自然災害とともに生きる」テスト | 学習時間 分 |
| 土 2/5 | 力だめし 週末課題 | 学習時間 分 |
| 日 2/6 | 力だめし 週末課題 | 学習時間 分 |

【振り返り】
 ①勉強時間 ②勉強の内容
 ③勉強の方法 ④勉強の量

【言葉で振り返り】

④ 子供が自主学习や地域学習を行う際のオンラインサポート環境の構築

学校ホームページや学校モバイルアプリから、令和3年度に整備した児童一人一台のタブレット端末から安全にアクセスできるサイトを構築し、地域学習サポーターからの学習に関するアドバイスや評価、質疑応答に加え、日常的な学習活動の紹介ページ等ができるよう準備を進めている。サポートは、地域の学習ボランティアや保護者(有志)、近隣学生ボランティアに依頼することとしている。

2. 効果検証内容・結果

(1) 効果検証のための指標

| No. | 検証のための指標 | 実施主体 | 具体的な検証内容 |
|-----|-------------------|---------------|---|
| 1 | 児童へのアンケート調査の結果 | 福津市教育委員会(実践校) | 家庭学習を中心とした学習への取り組み方に関する自己認識 |
| 2 | 標準学力テスト(東京書籍株式会社) | 福津市教育委員会(実践校) | 資質・能力のうち、特に「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」の状況を検証する。 |
| 3 | 総合質問紙調査(東京書籍株式会社) | 福津市教育委員会(実践校) | 資質・能力のうち、特に「学びに向かう力・人間性等」の状況を検証する。 |

(4) 指標に関するデータの取得方法(時期、回数等) ※(1)に記載した手法ごとに記載

| | 検証のための指標 | データ取得の時期、回数等 |
|---|-------------------|--|
| 1 | 児童アンケート結果 | 令和4年1月 令和4年度については月1回実施予定 |
| 2 | 東京書籍株式会社の学力調査の正答率 | 令和4年1月および令和5年1月の2回、取組実施校及び比較対象校の児童に対して学力検査を実施する。 |

| | | |
|---|---|--|
| 3 | 東京書籍株式会社の総合質問紙調査の結果 また、2の学力調査と関連分析を行う。 | 令和4年1月および令和5年1月の2回、取組実施校及び比較対象校の児童に対して調査を実施する。 |
|---|---|--|

3. 考察(本研究が学力向上のために有効な取組であると言えるか)

(1) 学校、家庭、地域の意識共有

これまで、子供の学力に関しては、保護者、地域に対し学校がその実態や対応を一方向で行ってきた。本研究実践において、意見交流会を行ったことは、研究テーマの学力向上方策のみならず、それぞれの意識共有、理解の促進等、地域全体で子供を育てるためにそれぞれができることを再確認する場となった。

交流会で出された主な意見

《地域コミュニティ》

- 学校・家庭・地域の連携を強化する
- 学校を核とした学びの情報発信を行う
- 家庭と地域がつながって子育てに携わる仕組みをつくる
- 高齢者が若い親世代にアドバイスできる仕組みをつくる
- 地域全体で子供を育てる(他者が子供を叱る)

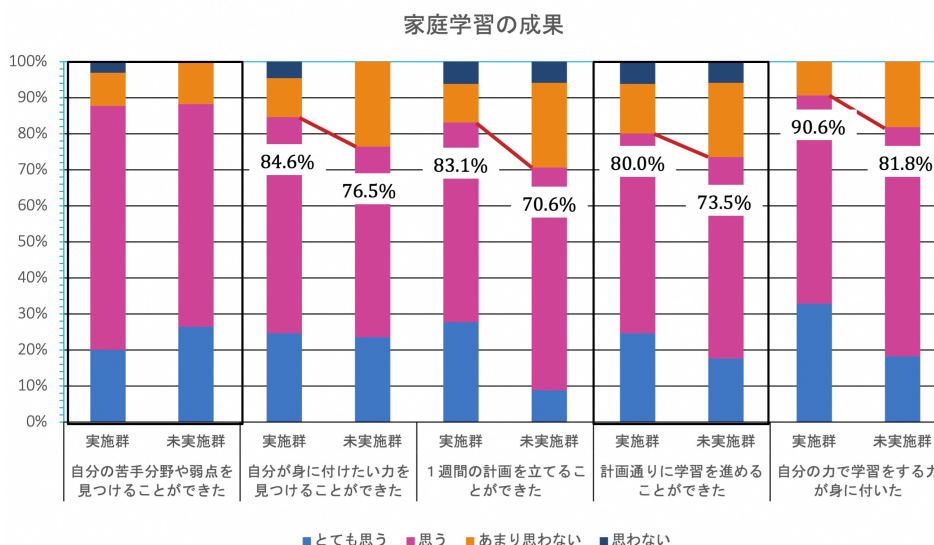
《子供の学び・成長》

- 課題を発見する経験、力の育成を意識する
- 地域ができること、家庭ができることを明確にする
- 家庭学習をリニューアルする
(単なる課題から自主的な学びとなるものへ)
- 家庭の教育力を高める方法を考え広める

(2) 家庭学習の施行に伴う児童の実態把握

① 家庭学習に関する児童アンケートの実施

実践校高学年において試行した家庭学習実施後の児童に対し右グラフの内容でアンケートを実施した。



この試行では、家庭学習を自主計画、自己分析を行うことで、自分自身の課題を見出す力、自分自身の学習のゴール像設定、学習計画力、計画遂行力等を身に付けさせることを目指して実施した。先行的に取り組んだクラスの児童は、未実施児童に比べ効果を感じていた。この試行により、教師設定の家庭学習に比べ、学習の自己管理意識が高まることが確認された。

②標準学力テスト及び総合質問紙調査(東京書籍)

本年度の結果については、次年度の家庭学習の取組を実施した際の検証の資料として活用することとしている。

4. 課題と今後の研究の方向

(1)学校、家庭、地域の意識共有

本年度実施した意見交流会については、実践校職員による企画、準備を行ってきた。交流会の趣旨や意義は、参加者や地域関係者に好評を得たが、学校の取組としての認識が強いことから、家庭や地域の参加者の主体性は十分にみられなかった。

今後継続的な交流会として実施していくことを目指し、学校主導の開催から、地域コーディネーター(地域学校共働活動推進委員)が中心となり、PTA等との連携を強化していくこととする。

(2)児童主体の家庭学習の実施

本年度の実践にあたっては、実践校教職員の構想や書籍等で紹介された事例を中心に試行した。様々な先行事例等の研究が十分に実施できていないことから、家庭学習の効果的実施方法や検証すべき内容、改めて検証し明確な根拠に基づき実践を行うこととする。

また、実践校においては、学年発達段階に応じた家庭学習内容を実践し、その効果を検証することとする。

(3)オンラインサポート環境の構築

1.(2)④で示す、現在準備を進めているシステムの構築を行い、運用する体制を整えることとする。

(4)教職員の資質向上方策

若年者率が高まっていることから、教師主導の学習活動の改善し、子供主体の学習活動の考え方や指導支援方法の拡充を図るためには、教職員の意識、指導技術の向上等が不可欠である。教員が相互に研修を行うことや、メンター制度の活用などにより、本研究で得られた様々な内容を市内教職員に周知することも積極的に行っていくこととしている。

5. 今年度の研究経過

| 月 | 内容 |
|-----|--|
| 6月 | 福津市「学び方」検討委員会の設置 意見交流会の企画 |
| 7月 | 福津市学力向上推進協議会の設置 第1回意見交流会の実施 |
| 8月 | 福津市学力向上推進協議会による「具体的な資質・能力」を育成するための家庭学習の検討(個別意見聴取) |
| 9月 | 取組実践校における新たな児童主体の家庭学習の試行 福津市「学び方」検討委員会開催 |
| 10月 | 第2回意見交流会の実施 文部科学省実地調査 |
| 11月 | 第3回意見交流会の実施 |
| 12月 | 第4回意見交流会の実施 |
| 1月 | 取組実践校における新たな児童主体の家庭学習に関するアンケート調査 学力調査、総合質問紙調査実施 |
| 2月 | アンケート調査分析(福津市「学び方」検討委員会) |
| 3月 | 福津市学力向上推進協議会 次年度計画策定 |

6. 研究関係者

(1) 学力向上推進協議会構成メンバー

| 所属 | 氏名 |
|---------------|--------|
| 福津市教育委員会 | 水上 和弘 |
| 福岡県教育庁福岡教育事務所 | 佐々木真理子 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 有馬 昌一郎 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 原尻 敏広 |
| 福岡教育大学教職大学院 | 峯田 明子 |
| 福岡教育大学教職大学院 | 脇田 哲郎 |
| 宮司郷づくり推進協議会 | 坂根 康廣 |
| 津屋崎郷づくり推進協議会 | 御厨 忠男 |
| 津屋崎中学校 PTA | 秦 和彦 |
| 津屋崎小学校 PTA | 坂本 一規 |
| 津屋崎ランチ LLP | 山口 覚 |
| 津屋崎中学校区 | 西田 明日香 |

(2) その他関係者

| 所属 | 氏名 |
|-------------|--------|
| 福津市津屋崎小学校 | 有馬 昌一郎 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 原尻 敏広 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 大淵 浩一郎 |
| 津屋崎ランチ | 山口 覚 |
| まち家族 | 廣橋 智美 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 大淵 浩一郎 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 逸見 和久 |
| 福津市教育委員会 | 山根 和宏 |
| 福津市立津屋崎中学校区 | 西田 明日香 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 秦 和彦 |
| 福津市立津屋崎小学校 | 田川 るみ |